

I 研究要旨

保健所、精神保健福祉センターの連携による、
ひきこもりの精神保健相談・支援の実践研修と、地域包括ケアシステムによる
中高年齢層のひきこもり支援に関する研修の開催と検討

分担事業者	辻本 哲士	滋賀県精神保健福祉センター
協力事業者	原田 豊	鳥取県精神保健福祉センター
協力事業者	福島 昇	新潟市こころの健康センター
協力事業者	平賀 正司	東京都立精神保健福祉センター
協力事業者	熊谷 直樹	東京都立中部総合精神保健福祉センター
協力事業者	井上 悟	東京都立多摩精神保健福祉センター
研究協力者	田中 治	青森県立精神保健福祉センター
研究協力者	白川 教人	横浜市こころの健康相談センター
研究協力者	二宮 貴至	浜松市精神保健福祉センター
研究協力者	太田順一郎	岡山市こころの健康センター
研究協力者	畑 哲信	福島県精神保健福祉センター
研究協力者	小野 善郎	和歌山県精神保健福祉センター
研究協力者	野口 正行	岡山県精神保健福祉センター
研究協力者	土山幸之助	大分県こころとからだの相談センター
研究協力者	増茂 尚志	栃木県精神保健福祉センター
研究協力者	林 みづ穂	仙台市精神保健福祉総合センター
研究協力者	宍倉久里江	相模原市精神保健福祉センター
研究協力者	小原 圭司	島根県立心と体の相談センター
研究協力者	竹之内直人	愛媛県心と体の健康センター
研究協力者	鎌田 隼輔	札幌市精神保健福祉センター（札幌こころのセンター）
研究協力者	小泉 典章	長野県精神保健福祉センター
研究協力者	佐伯真由美	広島県立総合精神保健福祉センター
研究協力者	山崎 正雄	高知県立精神保健福祉センター
研究協力者	本田 洋子	福岡市精神保健福祉センター
研究協力者	宮川 治	沖縄県立総合精神保健福祉センター
アドバイザー	中原 由美	保健所長会（福岡県宗像・遠賀保健所）
アドバイザー	清水 光恵	兵庫県伊丹保健所
アドバイザー	大舘 実穂	群馬県こころの健康センター
アドバイザー	三井 敏子	北九州市総合保健福祉センター

A. 目的

近年、保健所や精神保健福祉センターでは、ひきこもりに関する相談が増加し、かつ、内容が複雑困難化している。平成 29、30 年度に、計 6 回ひきこもり実践研修会を開催した。研修後アンケートの中でも、ひきこもり相談の増加、対応の困難さの意見が数多くみられたが、研修会の内容についての評価は高く、同様の研修会の開催の継続を希望する意見が多くみられた。このため、令和元年度も、同様の実践研修会の開催を行うこととした。

一方、8050 問題等で認められる中高年のひきこもりの増加が、今後の課題の一つとして挙げられ、平成 30 年度地域保健総合推進事業では、「保健所、精神保健福祉センターの連携による、ひきこもりの精神保健相談・支援の実践研修と、中高年齢層のひきこもり支援に関する調査」として、全国 15 地域の地域包括支援センター617か所を対象に調査を行った。回答を得られた 410か所のうち、約 6 割の地域包括支援センターが、相談・支援を行っている家族の中に、ひきこもり者が同居している事例を経験しているが、その 6 割のひきこもり者は現在支援を受けておらず、4 分の 1 の家族においては高齢者支援に不都合が生じているとしている。今後、高齢者支援とひきこもり者支援を並行して行う必要のある家族も増加してくることが予想され、かつ、生活及び経済面での自立困難、支援拒否など多くの課題を抱えている。このため、今回、アンケート調査を実施した地域のうち 3 か所において、地域包括支援センターをはじめ、保健所、市町村、関係機関職員を対象とした研修会を開催し、地域包括ケアシステムにおけるひきこもり者支援の在り方、課題について検討した。

B. ひきこもりの精神保健相談・支援の実践研修会の開催

令和元年8月22日、横浜市において研修会を開催した。全国保健所長会に協力依頼をしたうえで、各保健所へ開催案内を送信、参加者を募集した。参加者79名、所属:保健所 37 名、精神保健福祉センター25 名他。職種:保健師36名、医師 13 名他。

【開催内容】

- ①講義:「ひきこもりの基礎理解」「保健所におけるひきこもり相談への対応と支援」「発達障害を背景とするひきこもりへの関わり」。
- ②平成 30 年度地域保健総合推進事業報告。
- ③実践地報告:浜松市。
- ④事例検討:若年層 1 例、中高年齢層 1 例。
- ⑤意見交換:課題・取り組み等意見交換。

C. 地域包括ケアシステムによる中高年齢層のひきこもり支援研修会

1) 研修会の開催

第1回:令和元年10月4日、北九州市(参加者107名)。

第2回:11月1日、長野県(156名)。

第3回:11月22日、愛媛県(90名)。

【開催内容】

① 講義:

「ひきこもり相談への対応と支援」

「平成30年度地域保健総合推進事業アンケート調査報告:

地域包括支援センターにおける相談から見た、中高年齢層のひきこもり者の課題」

「中高年齢層のひきこもりについて～当事者の特性とチームアプローチ～」。

② 開催地報告。

③ 中高年ひきこもり事例検討。

第1回:50代男性。80代の両親と同居。両親が認知症状や脳梗塞を発症し、要介護状態になったことを契機に、地域包括支援センター等が関与した事例。

第2、3回:40代男性。無職にてひきこもり。過去に、ギャンブル依存による借金問題があり。同居する母(軽度認知症あり)に暴言を認める事例。

④ 地域連携の課題等の意見交換、各グループからの報告。

2) 研修前・後アンケートの実施

研修会開催の前後にアンケートを実施し、研修前140名(1回20名、2回79名、3回41名)、研修後261名(1回67名、2回115名、3回79名)より回答を得た。アンケートを通して、大きく3つの課題が示された。

① 相談窓口の明確化(後34件)

「行政においてひきこもりの相談窓口が専門、一本化ができていない」「ひきこもりの相談窓口が分かりにくい」等。ひきこもりは、求められている課題が、保健医療、福祉、就労、生活困窮等、それぞれ異なっているため、相談窓口の一本化、明確化が難しい。

② 機関同士の連携の強化(後58件)

「8050問題を見すえ、保健部内と福祉(包括)との連携をどう図っていくか」「高齢化が進む中で他組織、他職種との連携も必要」等。特に、8050問題では、一つの家庭の中に、親への介護サービスと、当事者へのひきこもり支援と複数の支援が入ることとなり、連携は重要とされる。

③ 介入拒否、困難、会えない(後22件)

「当事者たちの拒否があれば、介入は難しい」「家族相談で介入拒否や困難の長期化事例」等。当事者(時には家族も)が、支援・介入を拒否し、会えないことが支援の大きな壁となっている。これらの事例は、当事者に強い対人・集団恐怖や易刺激性があることが多く、その背景に、発達障害、2次障害を有している場合も少なくない。

D. 結論

平成 29 年度に引き続き、実践研修会を実施するとともに、新たに、地域包括支援センター等のスタッフも対象とした研修会を行い、大きく 3 つの課題が示された。相談窓口の明確化、機関同士の連携強化などのハード面は、今後、地域包括ケアシステムの充実とともに、組織連携や制度の整備等が重要とされる。一方で、8050 問題を含め、個々の事例は複雑多様であり、個別事例における連携や、支援・介入困難事例への対応等のソフト面は、多機関・多職種を対象とした研修により、ひきこもりへの理解、相談支援技術の向上、連携強化が今後とも重要とされる。

E. 今後の計画

引き続き、地域包括ケアシステムの充実に加え、多機関・多職種を交えた研修会の開催を実施し、保健所と精神保健福祉センターの連携のもと、相談、支援の技術向上を図ることが重要とされる。

なお、研修会の講義で使用した「ひきこもり相談への対応と支援」「中高年層のひきこもりについて」等の資料は、アンケート等からの質問内容への回答を一部付け加え、全国精神保健福祉センター長会ホームページ上で適時、内容を更新し、公開している。

F. 発表

1. 論文発表:なし
2. 学会発表:なし

本研究は、全国精神保健福祉センター長会研究倫理審査委員会にて承認(令和元年 7 月 29 日)を得ています。

II 研究報告

1 ひきこもり精神保健相談・支援の実践研修会

(1) 実施状況

一昨年度、昨年度に引き続き、ひきこもりの精神保健相談・支援の実践研修会を、横浜市で開催した。

研修会の内容として、最初に、「ひきこもりの基礎理解」「保健所におけるひきこもり相談への対応と支援」「発達障害を背景とするひきこもりへの関わり」の講義の報告を行った。また、平成30年度地域保健総合推進事業「保健所、精神保健福祉センターの連携による、ひきこもりの精神保健相談・支援の実践研修と、中高年齢層のひきこもり支援に関する調査」において実施した、全国精神保健福祉センターのうち15か所にある地域包括支援センター（各精神保健福祉センター圏内全域もしくは一部区域）617か所（回答410か所）を対象に実施した調査結果の報告を行った。

講義に引き続いて、実践地（浜松市）からの報告を行った。その後、ひきこもりに関する事例検討を、若年層と中高年層、各1事例を提示し、それぞれの事例をもとに、グループ単位で検討を行った。事例検討後、各グループで発表を行ってもらい、これに続いて、ひきこもり支援に関する課題・取り組みなどの意見交換、発表報告についての意見交換を行った。

(2) ひきこもりの精神保健相談・支援の実践研修会

【日 時】令和元年8月23日（金）10:00～16:15

【場 所】横浜市開港記念会館

【参加者】79名 ※（ ）内は人数

所属：保健所（37）、精神保健福祉センター（25）、保健センター（3）、市区役所（8）、他

職種：医師（13）、看護師（3）、保健師（36）、精神保健福祉士（3）、福祉職（10）、心理職（9）、司法（1）、事務（3）、他

地域：山形（2）、福島（2）、千葉（1）、東京（22）、群馬（1）、栃木（1）、埼玉（5）、茨城（3）、神奈川（11）、山梨（1）、岐阜（1）、静岡（2）、愛知（4）、新潟（1）、石川（1）、長野（1）、三重（1）、大阪（2）、和歌山（2）、兵庫（2）、島根（1）、山口（1）、岡山（1）、広島（2）、香川（2）、徳島（1）、長崎（1）、大分（1）、宮崎（1）、沖縄（2）

————— 研修会当日プログラム —————

1 開 会

2 講 義 （10:10～11:35）

「ひきこもりの基礎理解」

「保健所におけるひきこもり相談への対応と支援」

「発達障害を背景とするひきこもりへの関わり」

鳥取県立精神保健福祉センター所長

原田 豊

3 調査報告等 (11:35~11:50)

地域包括支援センターにおける相談から見た、中高年層のひきこもり者の課題

- ・平成30年度地域保健総合推進事業報告
- ・事例紹介

鳥取県立精神保健福祉センター所長

原田 豊

4 実践地報告

浜松市

浜松市精神保健福祉センター所長

二宮 貴至

(昼食 12:10~13:00)

5 事例検討

事例提供：鳥取県立精神保健福祉センター 心理判定員

山下 倫明

(1) 若年層

20代男性。無職にてひきこもり、万引きを機につながった事例。

(2) 中高年層

40代男性。無職にてひきこもり。過去に、ギャンブル依存による借金問題があり。

同居する母(軽度認知症あり)に暴言を認める事例。

(休憩 15:20~15:30)

7 意見交換、各グループからの報告

質問・まとめ (15:30~16:15)

8 閉会

————— 研修会当日配布資料 —————

- ① ひきこもり相談への対応と支援
- ② 発達障害の理解と支援
- ③ 平成30年度地域保健総合推進事業報告
- ④ 中高年層のひきこもりの理解と課題
- ⑤ 事例紹介資料
- ⑥ 実践地報告 浜松市
- ⑦ 事例検討1資料及び検討用シート
- ⑧ 事例検討2資料及び検討用シート
- ⑨ 意見交換用課題シート
- ⑩ 事後質問、アンケート用紙

2 地域包括ケアシステムによる中高年層のひきこもり支援研修会

(1) 実施状況 (全体)

今年度は、一昨年度より実施されていた「ひきこもりの精神保健相談・支援の実践研修会」とは別に、中高年層のひきこもり者への支援及び地域包括支援センター等の高齢者介護支援施設との連携が課題となってきたことから、新たに、「地域包括ケアシステムによる中高年層のひきこもり支援研修会」を、福岡県北九州市（第1回）、長野県（第2回）、愛媛県（第3回）の3か所で研修会を開催した。

これまでの研修会が、対象を、全国の保健所、精神保健福祉センター等の保健師をはじめとするひきこもり相談支援スタッフとしていたが、この研修会は、地域の中でのひきこもり支援に関する連携のあり方の検討を課題としていることから、対象を、開催地の自治体に限定し、これまでのひきこもり相談支援スタッフに加え、地域包括支援センター等の高齢者介護支援機関の職員を対象とした。

最初に、「ひきこもり相談への対応と支援」（資料1-1）として、ひきこもりの基礎理解に関する講義を行った後、平成30年度地域保健総合推進事業「保健所、精神保健福祉センターの連携による、ひきこもりの精神保健相談・支援の実践研修と、中高年齢層のひきこもり支援に関する調査」において実施した、全国精神保健福祉センターのうち15か所にある地域包括支援センター（各精神保健福祉センター圏内全域もしくは一部区域）617か所（回答410か所）を対象に実施した調査結果の報告を行った（資料1-2）。その結果を踏まえて、「中高年層のひきこもりについて～当事者の特性とチームアプローチ～」（資料1-3）についての講義を行った。なお、ひきこもりの長期化には、背景に発達障害が関与する場合も少なくなく、「発達障害の理解と支援」（資料1-4）を参考までに資料として加えた。

講義に引き続いて、開催地からの報告（第1回：資料2-1、2-2、第2回：資料2-3、2-4、第3回：資料2-5）を行った。その後、中高年層のひきこもりに関する事例検討を提示し、それぞれの事例をもとに、グループ単位で検討を行った。事例に関しては、第1回は開催地より事例の提供を、第2回、第3回は、主催者側より事例の提供を行った。

事例検討後、各グループで発表を行ってもらい、これに続いて、中高年層のひきこもり支援、連携などに関する課題・取り組みなどの意見交換、発表報告についての意見交換を行い、報告をして頂いた。各会場であげられたグループ討議の結果を、資料3に掲載した。

また、研修会の開催にあたり、研修前及び研修後に参加者にアンケートを実施した。アンケートの結果は、事前（研修前）アンケート：資料4、事後（研修後）アンケート資料5の通りである。

なお、第3回地域包括ケアシステムによる中高年層のひきこもり支援研修会で使用した資料に、アンケートでの質問事項に関する記載を一部付け加えた、「ひきこもり相談の課題と対応」「中高年層ひきこもり支援の課題」「発達障害の理解と支援」、及び、平成30年度調査結果の一部の報告は、全国精神保健福祉センター長会ホームページにおいて掲載した。

(2) 第1回 地域包括ケアシステムによる中高年齢層のひきこもり支援

研修会

【日 時】令和元年10月4日(金) 10:00~16:30

【場 所】総合保健福祉センター2階講堂(北九州市小倉北区)

【参加者】107名

————— 研修会当日プログラム —————

- 1 開 会
- 2 講 義 (10:10~11:20)
「ひきこもり相談への対応と支援」
- 3 調査報告(11:20~11:40)
地域包括支援センターにおける相談から見た、中高年齢層のひきこもり者の課題
(H30年度地域保健総合推進事業報告)
- 4 講 義 (11:40~12:20)
中高年齢層のひきこもりについて ~当事者の特性とチームアプローチ~
2~4講師 鳥取県立精神保健福祉センター所長 原田 豊
- (昼食 12:20~13:20)
- 5 開催地報告(13:20~13:50)
精神保健福祉センターから調査報告(北九州市における包括支援センター支援者への調査)
北九州市立精神保健福祉センター 富増 素子
ひきこもり地域支援センター「すてっぷ」からの報告
北九州市ひきこもり地域支援センターすてっぷ 所長 和田 修
- 6 事例検討 (13:50~15:10)
事例提供:北九州市精神保健福祉センター
「50代男性。80代の両親と同居。両親が認知症状や脳梗塞を発症し、
要介護状態になったことを契機に、地域包括支援センター等が関与した事例」
- (休憩 15:10~15:20)
- 7 地域連携の課題などの意見交換、各グループからの報告
質問・まとめ (15:20~16:30)
- 8 閉会

- ① ひきこもり相談への対応と支援
- ② 地域包括支援センターにおける相談から見た、中高年層のひきこもり者の課題
(H30年度地域保健総合推進事業報告)
- ③ 中高年層のひきこもりの理解と課題
- ④ 北九州市精神保健福祉センターから調査報告
(北九州市における包括支援センター支援者への調査)
- ⑤ ひきこもり地域支援センター「すてっぷ」からの報告
- ⑥ 事例検討資料及び検討用シート
- ⑦ 意見交換用課題シート
- ⑧ 事後質問、アンケート用紙

(3) 第2回 地域包括ケアシステムによる中高年齢層のひきこもり支援

研修会

【日 時】令和元年11月1日(金) 10:00~16:30

【場 所】長野県松本合同庁舎(長野県松本市)

【参加者】156名

研修会当日プログラム

- 1 開 会
- 2 講 義 (10:10~11:20)
「ひきこもり相談への対応と支援」
- 3 調査報告(11:20~11:40)
地域包括支援センターにおける相談から見た、中高年層のひきこもり者の課題
(H30年度地域保健総合推進事業報告)
- 4 講 義 (11:40~12:20)
「中高年層のひきこもりについて ~当事者の特性とチームアプローチ~」
2~4講師 鳥取県立精神保健福祉センター所長 原田 豊
- (昼食 12:20~13:20)
- 5 開催地報告(13:20~13:50)
長野県精神保健福祉センターから活動紹介

飯島町の取り組みについて～サポーター派遣事業をとおして

6 事例検討 (13:50~15:10)

事例提供：鳥取県立精神保健福祉センター 心理判定員 山下倫明

「40代男性。無職にてひきこもり。過去に、ギャンブル依存による借金問題があり。
同居する母（軽度認知症あり）に暴言を認める事例」

(休憩 15:10~15:20)

7 地域連携の課題などの意見交換、各グループからの報告

質問・まとめ (15:20~16:30)

8 閉会

————— 研修会当日配布資料 —————

- ① ひきこもり相談への対応と支援
- ② 地域包括支援センターにおける相談から見た、中高年層のひきこもり者の課題
(H30年度地域保健総合推進事業報告)
- ③ 中高年層のひきこもりの理解と課題
- ④ 長野県精神保健福祉センター（長野県ひきこもり支援センター）
ひきこもり支援の取り組みについて
- ⑤ 飯島町ひきこもり支援事業
- ⑥ 事例検討資料及び検討用シート
- ⑦ 意見交換用課題シート
- ⑧ 事後質問、アンケート用紙

(4) 第3回 地域包括ケアシステムによる中高年齢層のひきこもり支援

研修会

【日 時】令和元年11月22日(金) 10:00~16:30

【場 所】リジェール松山(松山市南堀端町 JA 愛媛8F)

【参加者】90名 ※ () 内は人数

所属：保健：保健所・保健センター等(27)、介護：地域包括支援センター等(33)、福祉：社会福祉協議会等(15)、就労：若者サポートステーション等(8)、教育(2)、相談機関(5)他(6、本庁など)

————— 研修会当日プログラム —————

1 開 会

2 講 義 (10:10~11:20)

「ひきこもり相談への対応と支援」

3 調査報告 (11:20~11:40)

地域包括支援センターにおける相談から見た、中高年層のひきこもり者の課題
(H30年度地域保健総合推進事業報告)

4 講 義 (11:40~12:20)

「中高年層のひきこもりについて ~当事者の特性とチームアプローチ~」

2~4講師 鳥取県立精神保健福祉センター所長

原田 豊

(昼食 12:30~13:30)

5 開催地報告 (13:30~13:50)

ひきこもり相談室からの報告

愛媛県心と体の健康センター内 ひきこもり相談室

6 事例検討 (13:50~15:10)

事例提供：鳥取県立精神保健福祉センター所長 原田 豊

「40代男性。無職にてひきこもり。過去に、ギャンブル依存による借金問題があり。
同居する母（軽度認知症あり）に暴言を認める事例」

(休憩 15:10~15:20)

7 地域連携の課題などの意見交換、各グループからの報告

質問・まとめ (15:20~16:30)

8 閉会

————— 研修会当日配布資料 —————

- ① ひきこもり相談への対応と支援
- ② 地域包括支援センターにおける相談から見た、中高年層のひきこもり者の課題
(H30年度地域保健総合推進事業報告)
- ③ 中高年層のひきこもりの理解と課題
- ④ 発達障害の理解と支援 (参考資料)
- ⑤ 開催地報告 ひきこもり相談室からの報告
- ⑥ 事例検討資料及び検討用シート
- ⑦ 意見交換用課題シート
- ⑧ 事後質問、アンケート用紙